

小名浜三小 学校だより

No.22

平成30年3月22日

校長 岡 亮

くすのき

卒業・修了おめでとうございます

先週はだいぶ暖かく、東京などでも桜が咲き始めたほどですが、また冬に逆戻りのような寒さを感じるこの頃です。

明日、平成29年度の教育活動がすべて終了となります。日々の授業、様々な学校行事、体験的活動…、それぞれの1年間を、通知票や修了証書、学年だよりなどを読み、各家庭で振り返っていただきたいと思います。

卒業生の保護者の皆さん、お子さんの卒業、本当におめでとうございます。

私の思いは、式辞やPTA会報、卒業文集に込めましたので、ここではふれません。中学校では、様々な試練が待っていると思いますが、くじけず乗り越えてほしいと思います。

また、5年生には、「次は自分たちの番だ」という気持ちと本校のよい伝統を引き継ごうという気持ちを持ってほしいと思います。4月になってからではなく、明日の卒業式への思いの持ち方もそうですし、委員会や登校班、鼓笛など、既に引き継ぎをしているものもあります。だからもう“最上級生”なのです。その“自覚”があるかどうかです。また、自分たちでよいと思ったことがあれば、積極的にやってみようという気概もほしいです。



卒業生に授業をしました

卒業を前に、6年生に道德の授業をしました。

1組では、詩画家の星野富弘さんを題材にしました。なぜ口で書いたカタカナが上手なのかを考えることで、「目標」をもつことに意義があることを学んでもらいました。2組では、精神科医をしている高校時代の友人を題材にしました。挫折を経験しながらも、自分がやりたいこと、やれることをつかんだことから、強い思いを持つことの大切さや、「芸は身を助ける」といったことを学んでもらいました。

3組では、架空のお話やタイのCM映像を教材に、心が傷ついたことやとても親切にされたことは忘れられない、ということも学んでもらいました。

自分のこれまでを振り返ったり、これからを考えたりするところは共通です。ワークシートには、びっしりと感想などが書かれていて、しっかり考えてくれたのだなということが分かり、ひと安心しました。

「くすのき」について

学校だより「くすのき」も、今年度最終号です。今年度も発行回数が少なく、内容も薄かったと思いますが、これまでお読みいただき、ありがとうございました。

